

## アジア主義・超国家主義と宗教 —道院・世界紅卍字会と大本教の連合運動—

玉置 文弥

(日本学術振興会特別研究員 PD)

2023年度日本宗教研究諸学会連合研究奨励賞受賞者として、以下の通り研究活動を行ったことを報告する。

### ◆ 研究・活動の概要

本研究は、アジア主義・超国家主義と宗教の関係を、道院・世界紅卍字会と大本教の連合運動（1923-1935）を対象として明らかにするものである。その際、次の計画を設定した。①歴史学的実証によって連合運動の実態解明を行い、②教義・理念・主張を検討して「宗教統一」思想を軸とした両団体の思想連鎖・融合を考察する。そして、③アジア主義・超国家主義に関する思想文献を精読して、連合運動をその思想的系譜に位置付ける。これらをもとに、アジア主義・超国家主義と宗教について論じる。

本報告書では、以上の計画に基づいて遂行したプロジェクトの成果を、その最終成果としての博士論文の概要および、その成果一覧によって示す。

### ◆ 本研究プロジェクトの結論:最終成果

本研究プロジェクトは、上記の①～③の計画にしたがって遂行された。その計画における成果一覧については次項に示すが、本研究プロジェクトの結論として、その最終成果である博士論文の内容を示す(玉置文弥『近現代日中におけるアジア主義・超国家主義と「民衆宗教」—大本教と道院・世界紅卍字会の連合運動』令和6年度東京工業大学博士論文)。

本論文は、近現代日中におけるアジア主義・超国家主義と民衆宗教の関係を、大本教と道院・世界紅卍字会の連合運動（1923-1935）を通じて考察し、その思想と運動を明らかにすることを目的とするものである。

序章では、アジア主義・超国家主義と民衆宗教の関係性が孕む問題系を定位し、それを連合運動の思想と運動から明らかにする狙いを論じた。具体的には、第一にアジア主義・超国家主義・民衆宗教それぞれの思想的系譜に互いを位置付けること、第二に近現代日中関係を宗教運動の視角から論ずること、第三に連合運動の思想と活動実態を明らかにすることであった。

第1章では、アジア主義・超国家主義と民衆宗教の交錯点について、先行研究をもとにそれぞれの思想的背景と課題を論じた。アジア主義は日中の思想的交錯を確認し、超国家主義は丸山眞男や橋川文三の議論を参考にしながらその宗教的側面を考察した。民衆宗教については、アジア主義や超国家主義と共鳴する宗教ユニヴァーサルイズムを捉えるとともに、民衆宗教概念のイデオロギー性に対する批判を検討した。

第2章では、大本教と紅卍字会の教義的根拠と両者の提携の背景を論じた。大本教は超国家主義的な性格を持ち、紅卍字会は国内での複雑な政治的立場を抱えつつも、両教団の一致点として、伝統的要素や近代主義批判、世界大同思想などを共有していたことを明らかにした。

第3章では、連合運動の実態と思想的位置づけを述べ、第4章では、連合運動初期(1923-1925)における両教団の近代批判的教義に基づく「宗教統一」思想とアジア主義が結びつく過程を分析する。続く第5章では連合運動中期(1925-1930)の活動を論じ、侵略主義と平和主義の二重性を内包しつつ、紅卍字会と大本教が組織・教義の両面で融合していく過程を考察した。

第6章では、連合運動後期(1931-1935)について論じ、満洲事変後に慈善活動と政治運動を展開した大本教と紅卍字会の活動を検討した。「満洲国」における信者の動態と、大本教の活動の変遷を通じて、アジア主義と超国家主義がいかに交錯していたのかを論じた。第7章では、連合運動が第二次大本事件で終結した後、その影響を受けて日中戦争・「大東亜戦争」期に展開された世界紅卍字会後援会の活動を考察した。

終章では、アジア主義と超国家主義の思想的系譜を越境する民衆宗教運動としての大本教を位置付け、その超国家的志向が「宗教ユニヴァーサルイズム」と結びつき、トランス・ナショナリズム運動へと展開したことを論じた。また、アジア主義と超国家主義を宗教的視点から考察することの重要性を指摘し、これらの思想が単なる政治的道具ではなく、アジアの思想的伝統から生まれた営為であることを明らかにした。

以上が、本研究プロジェクト「アジア主義・超国家主義と宗教一道院・世界紅卍字会と大本教の連合運動」の結論・最終成果である。

## ◆ 本研究プロジェクトによる主要成果一覧

### 【論文】

- 玉置文弥「超国家主義とユートピア—大本教の「人類愛善」思想をめぐる」『日本思想史研究会会報』41、2025年3月、29-48頁、査読有り。
- 玉置文弥『近現代日中におけるアジア主義・超国家主義と「民衆宗教」—大本教と道院・世界紅卍字会の連合運動』東京工業大学 環境・社会理工学院社会・人間科学系社会・人間科学コース博士論文、2024年3月、査読有り。
- 玉置文弥「第二次大本事件が残したもの—日中戦争・「大東亜戦争」下における道院・世界紅卍字会の「日本化」」『コモンズ』2、2023年2月、95-131頁、査読有り。

#### 【学会発表】

- 玉置文弥「アジア主義・超国家主義と宗教一道院・世界紅卍字会と大本教（2023年度日本宗教研究諸学会連合研究奨励賞成果報告）」日本宗教学会第83回学術大会、天理大学杣之内キャンパス、2024年9月14日。
- 玉置文弥「アジア民族会議と大本教一民族・国家・世界・人類をめぐる相克」「宗教と社会」学会第32回学術大会、國學院大學渋谷キャンパス、2024年6月15日。
- 玉置文弥「書評報告：藤田大誠論文「超国家主義と宗教」」独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）「日本近代における「異端神道」の成立と展開の諸相」（研究課題/領域番号23K00104、研究代表者：斎藤英喜）第2回研究会、佛教大学、2024年1月27日。
- 玉置文弥「近現代日中におけるアジア主義・超国家主義と「民衆宗教」—大本教と道院・世界紅卍字会の連合運動」（博士論文発表会）、東京工業大学2023年度博士論文発表会、東京工業大学、2024年1月24日。
- 玉置文弥「合評会：山下久夫・斎藤英喜編『平田篤胤 狂信から共振へ』第9・10・12章」『平田篤胤 狂信から共振へ』第2回公開書評会、オンライン、2023年9月24日。
- 玉置文弥「昭和神聖会と「満洲国」—アジア主義と超国家主義の交錯点」日本宗教学会第82回学術大会、東京外国語大学、2023年9月10日。
- 玉置文弥「「満洲国」の大本教—その実態と理念」「宗教と社会」学会第31回学術大会個人発表、愛知学院大学、2023年6月25日。
- 玉置文弥「「満洲国」の「民衆宗教」—大本教と道院・世界紅卍字会の連合運動」日本現代史研究会、府中市市民活動センター プラッツ、2023年6月17日。
- 玉置文弥「超国家主義と「民衆宗教」—橋川文三の議論を中心に」日本思想史研究会（京都）例会、オンライン、2022年12月16日。
- 玉置文弥「1920年代の日中関係と宗教運動—大本教と道院・世界紅卍字会の連合運動」アジア共創塾Jセミナー例会、オンライン、2022年12月8日。
- 玉置文弥「近代日中宗教の「混淆」—道院と大本教提携の「教義的根拠」」日本宗教学会第81回学術大会、愛知学院大学（オンライン）、2022年9月11日。

#### 【受賞】(本賞を除く)

- 2025年2月 公益財団法人国際宗教研究所賞奨励賞（受賞作品：玉置文弥『近現代日中におけるアジア主義・超国家主義と「民衆宗教」—大本教と道院・世界紅卍字会の連合運動』令和6年度東京工業大学博士学位論文）
- 2023年6月 2022年度「宗教と社会」学会奨励賞（受賞論文：玉置文弥「宗教統一」とアジア主義」『宗教と社会』第28号）

以上